



Be creative !

実習始まる！教育実習生から皆さんへ

今年度、3つの大学(日本福祉大学・中京大学・立命館大学)4つの学部それぞれ進学した4人の卒業生が教育実習を行っています。せっかくの機会です。実習生の皆さんにインタビューをしてみました。彼らに投げかけた質問は①4年間の大学生活で頑張ったこと②大学の学びでおもしろいと思っていること③高校時代を振り返って思うこと④高校生に伝えたいこと。皆さんより少し先に大人になった彼らの言葉を皆さんに伝えます。授業準備等忙しい中、皆さんのために原稿を寄せていただきました。じっくりと読んでください。

①大学4年間で頑張ったことを教えてください。

▼障害の壁を乗り越える 聴覚障害者との関わりを始め、多様性のある人々との関わり方について力を注ぎ頑張ってきました。私が所属する部活水泳部で聴覚障害の友達と、初めは筆談や携帯に文章を打って見せるなどの方法でコミュニケーションをとっていましたが、プールの中では、その手段を使うことができず、困ったことがあっても声がかげにくい状況であったことに気づきました。共に活動していく中で、手話を覚えてコミュニケーションができるようになりたいと思いました。手話以外にも指文字があり、本人から教えてもらったり、手話の授業を履修したりして、聴覚障害の友達とコミュニケーション方法の幅を広げる努力をしました。障害は周りの環境で変化するというように、周りの人の配慮や支援によって笑顔溢れる社会が生まれ、多様な価値観



を尊重し、寄り添うことの大切さを学びました。初めて聴覚障害の方と出会ったことで自分自身と向き合い深い学びに繋げることができました。聴覚障害に限らず人種、性別、国籍、障害の有無などの様々な壁を越えて関わり、多様な価値観を受け入れて行く重要性を学べたので、自分の生活に活かしていきたいです。(川本さん)

▼地域の魅力を発見する 私が、大学生活の中で頑張ってきたことは、地域観光の再生プロジェクトに参加したことです。大学3年生の夏に愛知県常滑市のやきもの散歩道にある廻船問屋瀧田家の運営と、岐阜県恵那市の恵那峡の観光活性化の活動の2つの企画に参加しました。地域の活性化のためには、どのような取り組みを行えばよいのかを考えると共に、恵那峡では2泊3日の合宿を組んで恵那の魅力を探しに行きました。廻船問屋瀧田家では、施設の受付や設備の清掃を通じて考えることが出来ました。これらの体験を通じてアイデアを生み出す想像力や、経済的分析の構築について身に付けることが出来ました。(上田さん)

▼個に寄り添う 大学1年生から続けている個別指導塾の講師のアルバイトに尽力しました。小学生から高校生まで幅広く受け持っていたため苦勞することも多々ありましたが、自分が生徒のためにできることはなにか常に考え、行動してきました。塾講師のアルバイトをして一番うれしかったことは、生徒や保護者様からお菓子やお手紙などのプレゼントをもらったことです。生徒にもらったハンカチやボールペンは今でも愛用しています。(山野さん)

▼いざ、カンボジアへ 4年間の大学生活で頑張ったことは、カンボジアへの手洗い歯磨きを中心とする衛生支援を行う国際協力のサークル活動です。メインの活動として、通常は年に2回現地を訪れ、子ども達に講習会を行っていました。コロナ禍により、現地へ行くことに重きを置いていたメンバーを中心に部内の気持ちは下がる一方でしたが、私は幹部として遠隔支援の提案や、コロナ禍で希薄化していた部内の



交友関係を深めようと、ミーティング後にみんなで遊ぶ企画などを考えました。遠隔支援では、メンバーのやりたいこと得意なことがより発揮できる環境を作っていました。結果、現地の大学生との交流や遠隔での講習会、現地の聞き取り調査をしながらの物資支援も成功させることができました。コロナ禍でもアクションを起こし続けることの大切さと、周りにいる人々との繋がり的重要性を感じました。(阿部さん)

②大学の学び—これは面白い！興味深い！

▼実社会と心理学の関り 大学では発達心理学を専攻していますが、面白いと感じたものは応用心理学です。私は大学に入るまで心理学はカウンセリング等でしか活用できないものだと思っていました。しかし、実際は日常で使われている製品や建物などにも、その学問が応用されていることを学んで驚きました。



「人間は必ず失敗する生き物である(フルプルーフ)」という特徴を考慮して、車のアクセルを強く踏み込むとブレーキが作動する設計があることも学びました。心理学は人の心を読む学問、抽象的で使い物にならない学問と誤解されてしまいがちですが、実は日々の生活に溶け込んでいるものだと知ってから心理学の見方が変わりました。(山野さん)

▼心を開くスポーツ 運動・スポーツは「する」だけでなく、「みる」「支える」「知る」など 360 度、多様な視点から関わることについて学びました。社会には様々なニーズや特性をもった児童生徒がおり、必要とする支援は一人ひとり異なります。保育園や小学校のボランティア活動を通して、障害のある子とない子が共に活動することで、子ども同士の学びが深まるだけでなく、教師同士や子どもと教師など様々な交流が生きる力につながるものと感じました。また、心の底や身体の芯から身体を動かす運動には、表情や動きの表現から嘘偽りのない子どもたちの気持ちが読み取れる機会であると感じました。子どもたちの笑顔を支えたと共に見守っていきたいと思います。(川本さん)

▼心理学からのアプローチ 大学で学んだ学問で面白いと感じたものは、心理学からアプローチする人のマネジメントの方法や自己分析、チームや周りの人との関わり方についてです。教職課程の中でも、教育や心理学を学ぶ機会があり興味を持っていましたが、ある講義では自己分析や身近な事例からどのように周りの人を巻き込んでいくか、やる気をどう導き出していくのかなどがより深く学べて、いま現在ももっと学んでみたいと思う学問です。(阿部さん)

▼ユニークなアイデアに触れる 興味深いと考えたことは、地方自治体と財政についてです。近年、地域の産業の衰退で財政破綻してしまう自治体が増えてきています。それらの自治体では、財政を復活させようと、例えば、ふるさと納税制度での返礼品の内容を魅力的なものにしてみることで納税額を増加させたりしています。また、町内全体に散らばっていた集落を一つに集約して住む「ミニタウン制度」を創り出し、経費を削減するという工夫がなされています。各自治体が抱えている課題に対してユニークなアイデアで打破しようとしている姿に触れることが出来たことです。(上田さん)



③高校生活を振り返って

▼部活と勉強の両立 私は、演劇部に所属していました。一年に2回ある大会に向けて何か月も前からコツコツと練習している傍らで、学校の行事の際には音響の担当をしたり、地域のイベントに参加したりと、平日はもちろん、土日でも活動をしていました。部内での関係性が強く、先輩後輩問わずにかかわりを持って一緒に行動していました。部活と合わせ、勉強も頑張っていました。校から配布される課題や、テストに向けての勉強は電車内でも取り組んでいました。ただ、自主的な勉強をすることがとても苦手だったところもあり、その点で

振り返ると、特に英語などは家で繰り返しの学習できるともっと良かったですね。全体を通じて、高校生活の中では部活のメンバーも含めて様々な友人を作ることが出来ました。私の中では、その友人一人一人が無くてはならない存在となっています。(上田さん)

▼視野を広げてくれた高校生活 自分自身の高校生活を振り返ると、日福での生活は本当にかけがえのないものです。卒業してからも、これから先も仲良くしたいと思える仲間に出会い、自分の世界を広げてくれました。自分な



りに頑張っていたことは、生徒会活動をはじめとする愛知県高校生フェスティバルでの活動です。高校生フェスティバルでは、社会問題に全く興味のなかった私が、学費に苦しむ仲間や様々な社会問題を知っていく中で、自分の知らなかった自分にも出会うことができました。社会問題なんて堅苦しくて関わるのを避けようとしていた自分の視野を広げてくれた多くの仲間に、今の私から大きな声でありがとうと伝えたい。(阿部さん)

▼一番の思い出は受験勉強 友達と遊んだり、文化祭で劇をやったり、2 回ほど短期留学へ行ったりと、貴重な体験がたくさんできた高校生活でした。一番心に残っていることは受験勉強です。なかなか成績が伸びず辛い思いをしたこともたくさんありましたが、友人や先生方に支えられながら何とか 1 年間必死に勉強したことは、今でも良い思い出です。(山野さん)

▼時間の有効活用 私が高校時代一番頑張ったと思うことは「時間の有効活用」です。通学に 2 時間かかり、部活動・習い事をしていたため、家での学習時間の確保が難しかったです。2時間の電車時間を無駄にしたくないと考えた時に、行ったこととして「やることリスト」を週ごとに作成し、隙間時間を有効活用し無駄のない行動に心がけてきました。電車の時間を使ってやれる勉強や行動を考えながら生活するようになり、電車以外の場面でも、時間を有効活用する行動を意識することで、視野が広がり、周りを見て行動できるようにもなりました。(川本さん)



④現役高校生の君たちに伝えたい！

▼やりたいことをたくさんやってください 今しかできないことはたくさんあります。勉強を強いられるのは今しかありません。友達と毎日会えるのも今しかありません。一日中暇な日があるのも今だけかもしれません。だからこそ、学校の勉強を楽しんでみてください。友達とたくさん遊んでください。法と環境が許す範囲でできることならなんでもしてみるといいと思います。後悔は先に立ちません。やりたいことを思いっきりやる高校生活を送ってください。(山野さん)

▼ハングリー精神で自分に素直に！ 悩みもやりたいことも尽きない時期で、諦めなければならないと思うことも多いと思います。ただ、やりたいと思うことは可能な限り、まずはやってみることが大切です。どうしても無理だと思うことがあれば、周りの大人にも相談して 1 人で抱え込まず、自分に素直に、自分の一番の味方でいてあげてください！(阿部さん)

▼仲間の存在を大切にほしい 部活動の中でも、日常の生活でも、ライバルを作ることでより良いスキルを互いに築くことが出来ます。一人だけが上手い状態では、成長するチャンスを逃してしまいます。一緒になって勉強をしてくれる存在がいるといないとでは、自分自身のモチベーションにそれは大きく影響します。良きライバルとなる仲間を作ること、私が伝えたいことはこれです。(上田さん)

▼今を大切に充実した毎日を過ごしてほしい 今ある当たり前の生活は家族や先生をはじめ、多くの人の支えがあることで成り立っています。常に感謝の気持ちを忘れず、相手を思いやることや恩返しを含め、人とのつながりを大切にしてほしいと思います。大学は専門的な学びができる場所であるからこそ、自分の好きな分野や好きなことについてとことん向き合い、将来の自分の道を探す大切な時期になります。新たな価値観を身につけることができる場所でもあるので、高校生の皆さんには夢を持って未来に羽ばたいてほしいと願っています。(川本さん)

【今月の言葉—今月号は実習生の皆さんから現役高校生の皆さんへ】

なるようになる 阿部さんから皆さんへ

人生どんな時だって「なるようになる」です。つらいこと、苦しいことがあっても「なるようになる」、逆に言えばなるようにしかならないと考えています。頭を抱えて悩むことも大切ですが、「なるようになる」と軽く考えることが自分のパフォーマンスをより高く発揮する、人生を楽しむためのコツなのではないかと思っています。



2位を狙え 上田さんから皆さんへ

これは、2006年の箱根駅伝で初の総合優勝した亜細亜大学の駅伝監督である岡田正裕(当時)の言葉である。自校初の首位で走っている選手が、不安と緊張から浮足が立っていた。その選手に向かって監督が言った激励の言葉である。過度に期待しすぎてしまうと逆に悪い結果をもたらしてしまうが、このくらいの気持ちを持っていると気持ちが静まって良い結果をもたらすことが出来ると、監督は考えた。実際に私自身も何かやろうとしたときに、自分自身に過度な期待を与えてしまうことが多い。その場合には、結果的には全く良い結果に結びつかない。私が備え持っているモノから少しでも更新が出来るように努力するようにすると、上手くいく。「2位を狙え」と自分に言い聞かせている。



なれない他人を妬むな、なりたい自分に憧れろ 山野さんから皆さんへ

人と比べて落ち込んでばかりである自分にとって、再び前を向いて次を見ることができる言葉です。

十人十色 川本さんから皆さんへ

十人十色とは、人はそれぞれ好みや意見が異なっていて、10人いれば10通りの思考が生み出され、みな別々の趣味や嗜好があり一律ではないことを意味します。それぞれの個性が様々な場所で輝きます。自分にとってと相手にとっての当たり前が何なのかを認識し、互いの違いを認め合うことが多様性につながります。ひとりひとりの輝きを大切にしたいと思いません。



頑張れ！実習生！

素敵なメッセージを高校生に送ってください、ありがとうございました。

Congratulations ! フィリピンの姉妹校に卒業式お祝いのメッセージを送ります



私たちの姉妹校 Silay Institute 校では、この6月16日に卒業式が執り行われます。コロナの影響により、例年より1か月以上遅い日程での卒業式になります。毎年、SI のザモラ先生が私たちの入学式にメッセージを寄せてくださるよう、私たちが毎年 SI の卒業式にお祝いのメッセージとビデオを送っています。今年は4年ぶりに対面での Exchange Program を実施することができます。フィリピンの皆さんが美浜にやってきます。暖かくお迎えしたいですね。

Congratulations to Silay Institute's Senior High School Graduates of Batch 2023!

In the past few years, due to the impact of COVID-19, we have yet to be able to meet and interact directly. I was in shock because it was a time when our Exchange Program was beginning to take off.

We, from Nihon Fukushi University Affiliated High School, have always been supported by your warmful close friendship. We have been learning too from your school, teachers, and students. We are exultant to have an immeasurable bond with your school. We appreciate you for creating an enriching learning environment and for giving us meaningful learning opportunities.



I have good news, this summer, for the first time in four years, our Exchange Program will resume. Our hearts are quickly flying to you.

I would like to extend my congratulations on your graduation. I know you studied hard and won the crown of honor. I respect all of you. Your graduation will be the only first of many proud and successful moments. I can't wait to see your future. Our prayers go with you. We know it will be a bright one!



As I end, thank you once again for always considering us and making us a part of your activities like this one. So, without much ado, let me close this message with the biggest and warmest congratulations for this graduation ceremony.

Sa liwat, Congratulations
sa inyo pag-graduate!
Madamo gid nga salamat!

Kikue Yamaguchi

